診断と治療

小児の非けいれん性てんかん重積状態

大塚頌子
岡山大学名誉教授／旭川荘療育・医療センター顧問医師

非けいれん性てんかん重積状態（nonconvulsive status epilepticus；NCSE）は診断が難しいことが多く見過ごされやすい．また成人と小児では相違点がある[1-4]．本稿では小児のNCSEについて概説し，小児期にNCSEを起こしやすいてんかんや疾患について取り上げる．

NCSEの定義

Epilepsy Research Foundationのワークショップ（2004）では「脳波上の発作活動に伴い，非けいれん性のさまざまな臨床発作症状が長時間続く状態」と定義された[5]．持続時間は30分以上とされている．

小児のNCSEの分類

発作型から全般発作のNCSEと部分（焦点）発作のNCSEに大別され，それぞれ全般てんかんと局在関連性（部分）てんかんに認められるが，局在関連性てんかんで一過性に全般発作のNCSEが出現することがある[6,7]．全般発作のNCSEは主に欠神発作重積状態，部分発作のNCSEは主に複雑部分発作重積状態である．欠神発作重積状態は小児欠神てんかんの定型欠神発作重積状態とLennox-Gastaut症候群などのてんかん性脳症や器質的脳障害を有する症例にみられる非定型欠神重積状態に分けられる．複雑部分発作重積状態には発作が長時間持続する連続型と意識が回復しない状態で発作を繰り返す反復型がある．複雑部分発作重積状態はどの焦点からも起こり得る．成人では反復型を特徴とする側頭葉てんかん起源のものがよく研究さ

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.